

(5)

野球部への入部を

希
望

する。

(4)

友人にちえを

借

りる。

(3)

町や村が

栄

える。

(2)

先生のことばを

伝

える。

(1)

大きなものは

倉
庫

にかたづける。

2

次の□に漢字を書きましよう。

そうこ

(5点×10)

(9)

おいしい

料
理

に

満
足

する。

(8)

川の

岸
辺

を散歩する。

(7)

手を挙げて発言を

求

める。

(6)

プリントを

印
刷

する。

(5)

天然の魚。

てんねん

(4)

貨物船が通る。

かもつ

(3)

なべに塩を入れる。

しお

(2)

守りを固める。

かた

(1)

行いを改める。

あらた

1 次の――の漢字の読み方を書きましよう。

(5点×10)

1 漢字①

答え 別さつ●ページ

らくらくマルつけノ



☆漢字は、又々回にある程度
テーマを設定してください
(生活の漢字ナド...)

小と同様に、問題のバリエーションを
問題数も増やしてください。

6 つなぐはたらしきの言葉

別^{べつ}さつ●ページ

1 次の言葉から、つなぐはたらきがほかとちがうものをえらび、記号で答えましょう。(6点×5)

(6点×5)

2 次の () にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えましょう。

(5点×6)

(5点×6)

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
ア	ア	ア	ア	ア
すると	ところで	つまり	または	だから
イ	イ	イ	イ	イ
けれども	なぜなら	すなわち	そして <i>他のものには カエ</i>	したがって
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
しかし	では	さて	それから	だが
ア	イ	ウ	ア	ウ

	(3)		(2)		(1)
ア	②	①	ア	②	①
つまり	イ	ある	い	は	
表紙の色は白、	イ	茶色がいい。	かれは父の兄、	ア	おじだ。
			だから	イ	しかも
			つかれたよ。	ア	早くねたい。
			歌がうまい。	イ	楽器もひける。
			なぜなら	イ	しかし
					がっき
					熱があるからだ。
					出かけよう。

もうひとつ易しい例文:

3 次の文にあてはまる言葉を選び、記号で答えましょう。(5点×4)

(5点×4)

(1) ~~今日は寒い。~~ **ア** だから 家の中ですごくそう。

イ ア
し だ
か し ち

(ア)

(2) 問題に答えた。
ア つまり 正かいできた。

イ ア
↑
そして つまり

イ

(3) 花がいろいろさいた。ア
たとえば ゆりだ

ア イ
た な
と ぜ
え な
ば ら

(ア)

(4) 終わったね。
ア ところが
次はどうする。

ア
ところ
が

イ
ところ
で

 τ

注意

4 次の文の にあてはまる言葉をあとから選
び、記号で答えましょう。(5点×4)

(5点×4)

(1) おいしいパンだ。
おみやげに買おう。

ア
だから
イ
そして
ウ
しかし

ア

(2) おいしいパンだ。
お店が家から遠い。

ア
へ
まり
イ
た
か
ウ
な
せ
な
ら

イ

兄はていねいに説明せつめいしてくれた。
いにやってみせてくれた。

ア
すると
イ
けれど
ウ
しかも

ウ

(4) 水を飲みますか。
お茶がいいですか。

ア　でも　イ　それとも　ウ　さて

イ

☆ 見た目はるるえと、ええらん補欠の問題ばかりなのハ、おれになりやす
・ 入るものを後からいはいぶ
・ ころるえを訂正サド、バリエーションを工夫してくたさい

☆ 誤解にくらべて、Q 数が多いので、誤解に合わせて小さくしていく。

（現状）富の割合が全体的にわたり、
これに合せて、入るも致
と増やして、後文をわかりやうい
ものにして、くたさい。
らくらくマルつけ／

1 (1) 漢字①
 (2) 漢字②
 (3) 漢字③
 (4) 漢字④
 (5) 漢字⑤
 (6) 漢字⑥
 (7) 漢字⑦
 (8) 漢字⑧
 (9) 漢字⑨

今日はこれでOKですが、
 他回はほかの内容になるように

- 1 (1) あらた (2) かた (3) しお (4) かもつ
 (5) てんねん (6) はんせい (7) さんか (8) がいとう
 (9) こころ、あんがい
- 2 (1) 倉庫 (2) 伝 (3) 栄 (4) 借 (5) 希望
 (6) 印刷 (7) 求 (8) 岸边 (9) 料理、満足

ポイント
 二つ以上の読み方がある漢字では、どの読み方で読むのかをしっかりと覚えておきましょう。音読みが二つ以上ある漢字が特にまじがいがしやすいので、よく練習しておきましょう。

- 1 (4) 「物」は「もの」と読むことが多いですが、「貨物」は「かももの」ではなく、「かもつ」です。(5) 「天然」の「然」は「ねん」、「自然」の「然」は「ぜん」です。しっかりと区別しましょう。(6) 「省」には「シヨウ」という音読みもあります。たとえば、「時間が無いので、一部を省りやくして話す」などの「省りやく」があります。
- 2 (4) 「借」は、「借りる」ときに使う漢字ですが、まちがえて「借す」のように「かす」方でも書いてしまうまちがいが、よくあります。気をつけましょう。(8) 「岸边」が「きしへん」でないことをおぼえておきましょう。読むときも書くときも注意が必要です。(9) 「料」と「科」をまちがえないようにしましょう。

4 説明文①

- 1 (1) ① イ ② しくみ、ききわけ (2) 目、明暗 (3) ウ
 (4) ③から⑤まで

ポイント

説明文では、何について書かれた文章なのかをとらえることが大切です。だん落ごとに書かれている内ようをとらえ、さらに、同じ話題でつながっているだん落はどれとどれかなどを考えながら、読んでいきましょう。

1 オウム貝のからだのしくみや、どのようにくらしているかについて説明している文章です。(1) 前には「どんなにさわいでも」とあり、あとには「係の人が水そうの壁を外がわからたたいてみたことがあります」とあります。どちらにも共通しているのは、大きな音です。②説明は、すぐ前で、あるいはすぐあとで、されていることがよくあります。ここでは、すぐあとの「どうもオウム貝は、耳のような音をきくしくみが無いのか、あったとしても、もはや音をききわけることができなくなっているようです」という一文が説明になっています。(2) すぐ前で「やっと明暗がわかるのでしょ」とあるので、何かについて「明暗がわかるのでしょ」とあることなのでしょう。何についてかは、あとに「もし目がふつうに見えるのなら」とあるので、目についてということになります。(3) すぐ前の(6)だん落に、「においも、味も、形を見わけけるのも、すべて無数にびているやわらかい触手で感じとっているようなのです」とあります。

(4) ①だん落と②だん落はオウム貝の耳について、(6)だん落と⑦だん落はオウム貝のうで(触手)について書かれているだん落です。

6 つなぐはたらきの言葉

- 1 (1) ウ (2) ア (3) ウ (4) イ (5) ア
 2 (1) ① イ ② ア (2) ① イ ② ア (3) ① ア ② イ
 3 (1) ア (2) イ (3) ア (4) イ
 4 (1) ア (2) イ (3) ウ (4) イ

ポイント
 それぞれのつなぐはたらきの言葉が、前とあととをどのようにつないでいるかをつかんで、しっかりと見分けられるようにしましょう。もし、よくまちがえる言葉があるときは、自分がどのような考え方をしているか、まちがえているかをふりかえってみましょう。はたらきについて、何かをかんちがいしているはずは、ありません。

- 1 (2) ア「または」は、前のこととあとのこととがらのどちらかを選ぶはたらきをします。それ以外は、前のこととがらに新たなこととがらをつけ加えるはたらきをします。「また」のときは、このつけ加えるはたらきなので、「また」と「または」の区別は注意しましょう。
- 4 (2) 前の「おいしい」とあとの「遠い」は、別に関係がないように思うかもしれませんが、「おいしい」といううれしいことがらと「遠い」という悲しいことがらという反対の関係になっています。

例えかえにともない
 カエ

オウム貝の目があまりにはっきり見えていないことがわかりました

り、よくよく

補足として
 他は小問
 のみで
 入って
 ください